

「米国第一」に深い危惧

日本共産党の志位和夫委員長は1月21日、以下の談話を発表しました。



一、トランプ米国新大統領は、就任演説で、「この瞬間から『米国第一』となる」とのべ、「貿易、税金、移民、外交」などのすべてでこの立場を貫くと宣言した。

世界最大の超大国であるアメリカのリーダーが、あらゆる問題で、「米国第一」

と宣言することは、「すべての加盟国の主権平等の原則に基礎」をおく国連憲章の精神にも背いて、世界各国に米国政府の立場を強要する、いっそうあからさまな覇権主義的政策を強めるのではないかという、深い危惧をもたざるをえない。

日本共産党 志位和夫委員長が談話

一、日米関係についていえば、トランプ大統領が、日本に対する軍事的・財政的負担の強化を求めてくる可能性がある。経済関係でも、トランプ大統領は、「TPP協定からの離脱」を宣言したが、今後、日米の2国間交渉をつうじて、米国とその多国籍企業の利益を第一におき、日本にいっそうの譲歩を迫ってくる危険がある。

一、安倍首相は、トランプ大統領の就任前から米国に駆けつけて「日米同盟」強化を誓約し、就

任にあたっては、さっそく「揺るぎない同盟の絆を一層、強化していきたい」との祝辞を送った。

「米国第一」を掲げるトランプ政権に対して、日本政府が、これまでのような「日米同盟絶対」という硬直した思考を続けるなら、いよいよ対応ができなくなるだろう。

異常なアメリカ追従外交を根本から見直し、対等・平等・友好の日米関係に切り替えることが、これまでにまして切実な課題となっていることを、強調したい。

「日米同盟絶対」では対応できない

トランプ大統領が就任

折り返し

共闘を前に 野党十 市民



第27回党大会で、代議員とともに拳をあげる共産党 志位委員長（中央）と野党の代表（1月15日、静岡県熱海市（しんぶん赤旗）提供）

共産党第27回大会

安倍政権打倒へスクラム

日本政治の新しい時代へ

「安倍自公政権と維新」VS 「野党と市民の共闘」の対決。始まった日本政治の新しい時代をいかに前に動かすか、がテーマになった共産党第27回大会（1月15～18日）。かつてない注目を集めました。

95年の党史上、はじめて他党（民進党、自由党、社民党、参院会派・沖縄の風）の代表があいさつしました。民進党の代表は「違いをことさら強調するのではなく、大局観に立って一致点を見いだし、度

量と決意をもって共通の敵に立ち向かおう」と訴えました。

大会では、安倍政権に代わる強力な受け皿＝国民の願いにこたえた「大義の旗」を掲げ、「本気の共闘」に取り組みば、政権打倒は可能であることを示しました。

日本共産党は安倍政権打倒、野党連合政権樹立へ野党・市民と力をあわせませす。

日本共産党

近畿民報

2017年1月 No.4 (第263号)
発行/日本共産党国会議員団
近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビル102号
Tel.06 (6975) 9111 Fax.06 (6975) 9115
Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。